

2022年9月26日 5:00

鉄の建築材を3社でリサイクル 電炉でCO2排出減



リサイクルには電炉を活用し、高炉を使う場合よりもCO2排出量を約75%削減する

大和[ハウス](#)子会社の大和リースと[東京製鉄](#)と鉄スクラップ専門商社のナベショー（大阪市）の3社は、鉄の建築材をリサイクルする協定を締結したと発表した。リサイクルには電炉を使うため、高炉を使う製鋼過程よりも二酸化炭素（CO2）排出量を約75%削減できるという。

3社はリース用建築で使われた外壁の金属部分をリサイクルする。断熱材を鉄板で挟んだ構造になっていて、大和リースは従来処分していた。東京製鉄は電炉で鉄板を溶かし、製造した鋼材を大和リースに売る。ナベショーはリサイクルのスキームを作成し、物流や加工処理の流れを管理する。

今後リサイクルの対象になる拠点数や扱う品目を増やし、23年4月までにリサイクル率を96%に引き上げることを目標にしている。

（岡本康輝）

記事・写真等を許可なく複製・転載することはできません。

記事の閲覧にはNIKKEI GXの会員登録が必要です。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.